

若者と政治をつなぎ、地域の課題をともに考える

令和3年春、NPO法人ドットジェイピー主催の議員インターンシップにおいて、長崎県立大学の学生7名を受け入れました。約2か月にわたり、佐世保市の課題について一緒に考えました。コロナ禍で学生の活動も制約される中、少しでも政治を身近に感じていただければと思います。



2021.2.26



前半は地域で、後半は議会で政治の役割を学びました。

2021.2.26



若者の投票率向上策について選挙管理委員会と意見交換。

2021.3.8



佐世保市水産センターの種苗研究の現場を見学しました。

2021.3.30



議員インターンの終了の際、学生から色紙を頂きました。

新型コロナウイルス関連 (ワクチン接種・経済対策等)

佐世保市ワクチン接種予約サイト

右のQRコードより佐世保市ワクチン接種予約サイトがご覧いただけます。下記の連絡先より電話での予約も可能です。



<<佐世保市ワクチン接種予約コールセンター>>

ナビダイヤル：0570-022-558

受付時間：9時から18時(土曜、日曜、祝日を含む)

新型コロナウイルス感染症や発熱等症状のある方の受診・相談の流れ

発熱・倦怠感などの症状がある方	新型コロナウィルスに関する一般的な問い合わせ
<p>かかりつけ医等の身近な医療機関</p> <p>受付時間等は各医療機関にお尋ねください。</p> <p>※事前に医療機関へ電話で相談してください。</p>	<p>受診・相談センター</p> <p>0120-071126</p> <p>24時間対応(土日祝日を含む)</p>
	<p>一般相談窓口</p> <p>0956-25-9809</p> <p>9:00~17:30(平日のみ)</p>

新型コロナ関連の各種支援策

右のQRコードより内閣官房がまとめた新型コロナウイルスに伴う各種支援策についてご覧いただけます。



佐世保市のワクチン接種状況

佐世保市では65歳以上の高齢者の皆様への個別接種を5月25日から、集団接種は5月26日から開始しています。7月4日の時点で、高齢者は約8万2千人、2回分の総接種回数を16万4千回として、接種割合は約5割(80,612回)となっています。

また、市全体での対象者は、約21万4千人、2回分の総接種回数を42万8千回として、接種割合は約2割弱(109,858回)となっています。

さらに、6月30日、64歳以下の皆様に接種券が発送されました。まずは優先接種を先行し、対象は基礎疾患をお持ちの方、高齢者施設の従事者、保育所・幼稚園の職員、放課後児童クラブ・児童センターの職員、小・中学校、義務教育学校の教職員、介護サービス事業所従事者、障がいサービス事業所従事者の方々です。

これらの皆様には、接種券が届いた日から7月14日までを先行予約期間とし、予約の受付が行われます。それ以外の一般の皆様は、7月15日から予約受付が開始されますが、先行予約の状況次第により開始日の前倒しなど柔軟に対応していくとのことです。

《プロフィール》 たやま ふじまる 佐世保市議会議員 田山 藤丸

- 1989年7月23日生まれ(32歳)
- 長崎県立大学経済学部地域政策学科 卒業
- 佐世保市議会議員(1期目・29歳で初当選)
- 総務委員会 副委員長
- 議会運営委員会 委員
- 石木ダム建設促進特別委員会 委員
- 会派:自民党市民会議
- 相浦青年会、消防団第26分団、保護司
- 佐世保私立幼稚園協会 顧問
- 自由民主党佐世保支部 青年部長
- 妻、2男、1女と愛宕町在住

ふじまるの#つぶやき

相浦地域の歴史や魅力を再発見し、写真集を作成する長崎県立大生の「もの録(ログ)プロジェクト」が完了し、木村学長や朝長市長等への活動報告に同行しました。学生が地域でのフィールドワークを重ね、素晴らしい写真集が出来上がっています。地域も相浦地区自治協議会を中心に温かくバックアップいただき、佐世保市教育委員会にもご協力いただきました。地域と大学の連携に期待します。



朝長市長を訪問 2021.4.27



木村学長を訪問 2021.6.29

ふじまる通信

佐世保市議会議員

まちを繋ぎ
ゆめを育む
若い力。



公式HP



【田山ふじまる事務所】長崎県佐世保市相浦町 220 TEL/FAX 0956-59-8762 携帯:080-1795-6159

未来への責任。

私たちは未来に向かって、どんな過去を残せるでしょうか
子どもたちのために、何を守り、何を新しくするのか
市民の皆様とともに考え、行動していきます



2021年4月25日(日) 今年も相浦川に鯉のぼりが登場!

今年も相浦川に、相浦青年会・相浦地区自治協議会・相浦駐屯地水陸機動団・長崎県立大学の皆様によって鯉のぼりが設置されました。子どもたちの成長と新型コロナの終息を願っています。

ご挨拶

皆様には日頃より一方ならぬご厚情を賜り、深く感謝申し上げます。依然として新型コロナの影響が続き、将来にご不安を抱かれる皆様、厳しい経済状況に苦しんでおられる事業者の皆様もいらっしゃると思います。県全体では感染者も減少傾向にあるものの、本市では新規感染者の確認が続いている状況です。一方で、65歳以上の高齢者の皆様方へのワクチン接種が進み、6月30日には64歳以下の皆様へ接種券が発送されました。また、本市では観光業や造船業等の不振が重なり、新たな産業の創出をはじめ、思い切った対策が求められます。市民の皆様のご生活を守るべく、持続可能な未来に向けた市政の推進に全力を挙げる所存です。結びに、皆様のご健康とご隆盛を心よりお祈り致します。

田山 藤丸 拝

総務委員会 副委員長に就任



田山副委員長 橋之口委員長

令和3年5月の議会人事で、総務委員会の副委員長を仰せつかることになりました。佐世保市議会には4つの常任委員会が設置され、議案や請願等の審査を分掌しています。議員の任期も折り返しとなり、前期2年は文教厚生委員会、そして後期2年は総務委員会に所属することになりました。総務委員会は財政・行革・人事・消防・市民生活・防災・基地政策・企画部等、多岐にわたる分野を所管します。さらに、佐世保市議会には常任委員会の他に4つの特別委員会も設置されており、例えば私が所属する石木ダム建設促進特別委員会のように特定の問題について審査や調査を行っています。また、議会の会期日程など議案・請願・陳情の取り扱いを協議する議会運営委員会もあります。しっかりと職責を果たして参ります。

離島 news (高島・移動販売編)

佐世保市の「高島」は人口170人の小さな島です。H28年に高島唯一の商店が閉店、翌年から週1回の移動販売が実施されていました。佐世保市もH30年より離島移動販売支援事業として、フェリー料金の3分の1の補助を開始していましたが、本年に入り事業者の移動販売の事業継続が出来なくなりました。折しも、台風の影響で浮桟橋が崩壊し、島民の移動に支障が出ていた時期と重なるなど厳しい状況でした。そこで、佐世保市は令和3年度よりフェリー料金の補助を2分の1に引き上げ、事業者の公募を行ったところ、移動販売車を有するセブンイレブン佐世保上相浦店様にご協力いただけることになりました。



木村町内会長と事業者

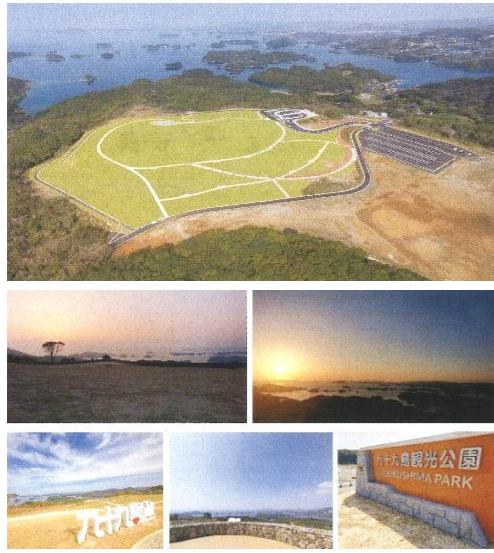


移動販売車の商品棚

高島における移動販売は、交通手段を持たない高齢者にとって食料品や日用品の購入に欠かせません。今後は、少子高齢化や人口減少に伴い、離島以外の地域でも買物弱者対策は大きな課題です。国・県と連携し取り組みます。

俵ヶ浦半島開発（九十九島観光公園）

令和3年3月末に、県障がい者支援施設つくも苑の跡地に九十九島観光公園が開園しました。跡地活用は長年の課題であり、当初は県営の工業団地の造成も想定されました。しかし、地元側より「自然景観を活かした滞在と交流施設」が強く要望されたこともあり、市は跡地活用の構想を工業団地から公園に軌道修正し、海外からのクルーズ船観光客の集客も目指して造成に着手、暫定開園しました。



当公園は九十九島を一望出来る素晴らしい環境です。一方で、市が当初から計画していたクルーズ船観光客の誘致や九十九島動植物園の移転については、昨今の新型コロナウイルスの影響で見通しが立たない状況であり、計画の再検討を余儀なくされています。

【3月28日にオープンした観光公園】

九十九島動植物園の移転検討について

- 九十九島動植物園の現状と課題（当局の説明）
 - ・昭和36年の開園から施設が老朽化。約3割が築40年以上経過し、配管図などがなく、部分改修も困難な状況。
 - ・近年、ペンギン館やテナガザルの施設などの拡充を図ってきたが、依然として入場者数が伸び悩んでいる。
 - ・そこでH30年に「動植物園のあり方」を検討する中で閉園も選択肢としたが、約半数の動物の譲渡が出来ない状況が想定され、閉園は困難との結論に至った。
- つくも苑跡地（現観光公園）に移転整備を検討
 - ・新たな用地取得が不要で、この度観光公園が整備されたつくも苑跡地に移転し、全天候型施設とすることで集客増を図れると試算。R1年度より動植物園移転の検討を開始し、R2年度は民間企業にサウンディングを行った。
 - ・R3年度は動植物園の利用者や市民に対するアンケート調査、地元との意見交換などに取り組む。（予定）



【九十九島動植物園】 【H25新設のペンギン館】

防災ラジオの各家庭への無償貸し出しについて

本年度、防災ラジオが9地区（宮・早岐・相浦・中里皆瀬・黒島・針尾・江上・崎辺・愛宕）に無償貸し出しされます。すでに旧北松地域には配備されており、その他の地域は令和4年度以降の配備が計画されています。上記の9地区は、7月から8月にかけて希望調査のための書類が各世帯に郵送で届きます。その後、防災ラジオの配布は1月から3月の間に実施される予定です。



これまで屋外の防災行政無線の放送が豪雨時など聞こえにくいとの指摘がありました。防災ラジオによって、災害時の緊急放送や避難情報など市からのお知らせを自動受信出来ます。さらに、聞き直し機能や音量の調節も出でき、地域限定放送も可能です。

皆様からの声をお聞きし、改善に取り組んでいます

地域からいただいた声を、町内会長の皆様と連携し、行政に届けています。危険箇所の安全対策や災害復旧など、内容は多岐にわたります。



急傾斜地崩壊対策 通学路の安全対策 農地の災害復旧

6月24日 長崎新聞

市総合グラウンド建て替え 官民連携の可能性検討へ

佐世保市議会 定例佐世保市議会は23日、一般質問が始まり、6人が登壇。西本眞也教育長は、老朽化した市総合グラウンドを建て替える場合に官民連携による整備が可能かどうか検討を始める考えを示した。

田山議員（自民市民会派）に答えた。市教委によると、年間30万人以上が利用する同グラウンドは、1969年の長崎市は来年度以降にスポーツ施設の整備計画を策定する予定で、その中で同グラウンドの建て替えも議論するとしていた。

一方、建て替える場合にPFI（民間資金を活用した社会資本整備）などの導入が可能かどうかは本年度から検討を始める方針を表明。民間企業との意見交換などを進め、「メリットやデメリットなどの情報収集に努め、（導入の）可能性を摸索したい」と述べた。（田下真明）

《2021.3.12》3月定例議会 一般質問

農水産物の消費と販路の拡大について

田山：令和2年度は佐世保市の水産市場業界にとって絶不調の年となった。新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛等により出荷が減少し、水産市場の取扱金額も大幅に減少している。さらに気候変動や乱獲など海況異変も追い打ちをかけた。そこで、水産業界を支援し、佐世保市が誇る農水産物の消費量の回復、販路拡大を図るための施策について考えを伺う。

農林水産部長：現在、佐世保市の支援策については卸売業者と協議を進めており、今後は HACCP 対応の施設整備も必要となる事から施設使用料の負担を抑える計画とし、生産者が安心して出荷でき、卸・仲卸・小売業者が取引しやすい環境づくりに取り組んでいく。

田山：加工・流通の新拠点として水産加工団地の再整備を急ぎ、オンラインを活用した料理教室や魚食文化の普及など食育事業の強化を図るべきではないか。

農林水産部長：水産加工団地は令和3年度で残る工事を完了し、速やかに分譲・売却手続きを進めたい。食育事業は「次期佐世保市食育推進計画」を策定する際に、積極的な魚食の普及促進策を計画に盛り込んでいく。



造船業・海洋産業・防衛産業について

田山：佐世保重工の新造船事業休止は、250名の希望退職者の募集にとどまらず、協力企業をはじめ本市の経済に与える影響が懸念され、人口流出や技術力の消失につながる恐れがある。そこで、防衛産業の維持・育成・高度技術に対応できる造船業への後押しや、新たな産業として洋上風力や潮流発電などの新技術、海洋産業クラスターの形成など、本市の製造業の再生に官民連携で取り組むべきではないか。

朝長市長：海洋再生可能エネルギーは、県内においても実証試験などの取組が進められており、市内企業の参画もなされている。今後の成長可能性が見込まれていることから、事業の一部を担っていく、メンテナンスへの参画など、機を逸することがないよう、佐世保重工はもとより造船関連企業の積極的な参画を期待し、海洋産業クラスターの形成に向け取組を進めたい。

《2021.6.23》6月定例議会 一般質問

持続可能なスポーツ環境の整備について

田山：昭和44年に整備された本市総合グラウンドの再整備が大きな課題となっている。しかし、財政硬直化や人口減少の中で、持続可能なスポーツ環境の整備を図っていくためには、既存施設の集約や複合化を図り、他市町を含む広域都市圏での連携、民間の資金やノウハウを活用した官民連携での取り組みが不可欠だ。

教育長：本年度はスポーツ推進計画を策定し、来年度に予定する施設整備計画の中で総合グラウンドの建替えを議論していく。まずは計画に先駆け、施設整備の際の民間資金の活用、PFI 事業など新たな手法について本年度より検討を始め、民間企業と意見交換を行いたい。

田山：相浦地区は総合グラウンドを含む市街地構造の改善により災害対応型の街づくりが必要ではないか。

都市整備部長：今後、相浦地区の都市機能の維持・向上を図るべく、緊急時に垂直避難が可能な建物の立地を促進するなどの区域に指定し、安全性を確保していく。

これまでの一般質問の録画中継は下記に記載のQRコードよりご覧頂けます。



佐世保市総合グラウンド



脱炭素化と地方創生の取組について

田山：国の各省庁において、石油・石炭・ガスの有望な代替燃料として水素やアンモニアが注目され、脱炭素化などへの補助や税制優遇が加速している。そこで、現在は稼働していない九州電力相浦発電所の活用と近接する工業団地との連動も可能性があるのではないかと。本市が既存の地域資源を活かし、化石燃料に代わる新エネルギーの生産・流通に關与すべきと考える。

田中副市長：本市も国の動向を注視しており、ご提案の関与については企業の採算面、水素などの性質や運搬などを考えると大規模な製造拠点と一定規模の土地が必要となる。その点で相浦発電所跡地は有効な土地と認識しており、国が推進する水素やアンモニアなどの製造や産業化と合致するかどうかも含め、実施主体となり得る企業ニーズの把握などの課題を確認した上で検討を進めていきたい。



九州電力相浦火力発電所